

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 7 月 11 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100256		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂		
所在地	広島県広島市東区戸坂大上3丁目2-30 (電話) (082) 229-2822		
自己評価作成日	平成24年6月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100256-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100256-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年7月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

人として当たり前の活動（食事は口から摂取、排泄はトイレで行う、お風呂は湯船に浸かる）を援助すると共にその人らしさの実現に向けて、私たちと同じ生活者として向き合い、その人が生活の主役、人生の主役になって頂ける様、生活の再建を目指し、支援しております。また、人間学、生理学にかなった「自立支援の介護」を目標とし、最期まで可能な限りその人らしく過ごして頂ける様、日々努めています。そして、ご利用者と共に町内行事に参加させて頂くことで、地域住民の方との交流を図り、地域に開かれた事業所作りにも力を入れています。 母体がクリニックということもあり、日々の健康管理や急変時の対応も、医師・看護師と連携を密に行うことが可能なので、安心して生活して頂いております。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は開設3年目を迎え、地域密着型の施設として活動し、地域とのつながりを重視していきたいと考えている。散歩時にゴミ拾いをしながら挨拶を交わしたり、交流行事に駐車場を開放する等、その取り組みが成果を上げつつある。「入居者一人ひとりの持ち味を生かし、その人らしく暮らしていただく」を念頭に、専門家目線で設えた設備とプロの援助技術に支えられながら、18人の入居者が穏やかに生活している。また、当事業所は法人における人材育成の場として位置付けられており、リーダーの養成も担っている。
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に基づき、行動指針となる「生活作り10ヶ条」を毎朝の朝礼時に復唱している。そして、その言葉の意味を全職員が理解し、実践する為、管理者やリーダーが中心となり、周知徹底に努めている。	法人の理念と行動指針である「生活作り十ヶ条」に従い、事業所独自の年間目標と職員各々の目標を作成して、日々のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的にはホーム周辺の掃除や散歩の際、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域行事への参加や、自分達の主催する行事へ招待する等、積極的な交流を行っている。 町内会にも加入し、地域の一員として交流を図っている。	地域の交流行事に、駐車場を開放して積極的に協力している。今後は、老人会や子ども会等に所属していない人々にも参加を呼びかけて、交流の機会を広げたいと考えている。毎朝、入居者と一緒に散歩を兼ねて行うゴミ拾いでの挨拶が、住民とのコミュニケーションの拡大に役立っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	専門的な認知症ケアについて常に向上心を持ち、地域の方から電話や訪問にて相談を受けたときは、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、ご利用者の生活状況報告や取り組んでいるケア実践等の報告を行い、また、参加者からも事業所に対する意見や提案を頂き、双方向のやりとりを行った結果をサービスに反映している。	運営推進会議に参加しにくいメンバーが、年に何回かは参加できるように、曜日や時間の工夫を図っている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への定期参加を促している。また、事故報告書を市の方へ随時報告を行っている。	市の担当者へ積極的に情報提供を行い連携を深めると共に、運営推進会議への参加も呼びかけている。介護技術講習会や認知症サポーター養成講座への講師派遣等を通して市と協力関係にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b>  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内外の身体拘束に関する研修に参加することで理解を深めると共に、事業所内において委員会を設置し、広く普及に努めている。	職員の身体拘束についての理解は徹底されており、拘束のないケアが実践されている。不適切な言葉使いがあった時には、その場で納得できるような示唆を与え、職員の意識向上に努めている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b>  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内外の虐待防止に関する研修に参加することで理解を深めると共に、事業所内において委員会を設置、広く普及に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修に参加することで知識を深め、資料の回覧及び配布により、各職員が周知できるよう努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b>  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書を提示し、具体的に説明するよう努めている。ご利用者及びご家族等からの要望や疑問などについては、可能な限り適切な対応に努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に3回家族会を開催。家族よりの意見を伺う機会を設けるとともに、普段より面会等で来られた場合に、意見等あれば都度対応している。	家族会でスライドショー等を行い、入居者の普段の生活を紹介し、家族からの意見、要望等を聞くようにしている。今後も魅力的な家族会を目指している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、全体会議及びリーダー会議といった定例会議を開催し、意見交換の機会を確保している。	職員からの意見・要望はリーダーに伝えられ、リーダーから管理者へと伝達されるシステムになっている。意見が出しやすい環境が構築されており、出された意見・要望が可能な限り反映されている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績考課表や職務チェックリストによる個々の職員の評価制度を設け、年に2回実施、昇給等に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	筆記・実技試験を実施（マイスター制度）各職員の介護知識及び技術の把握を行っている。また、定期的な内部研修及びOJTにより、介護技術の向上に努めている。外部研修については、研修補助費という制度を利用できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に定期的に出向き、情報交換等により連携を図っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には、ご本人とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に対する心情や意向を的確にお聴きするよう努めている。その際、担当者を定め、可能な限り同じ者が対応するよう心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前より、ご利用者に関する要望や思いを丁寧に聞き取りすると共に、事業所のコンセプトを伝え、場合によっては、ご家族の協力を必要とすることがあることを理解して頂く。そして、密な情報提供により、ご家族に安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談や電話にての相談時には、ご本人やご家族等に今必要な支援を把握し、ご本人に合ったサービス利用の提供を支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的な介護ではなく、自立支援を念頭においた「共に行う」という意識の下、支援をしている。また、調理等の際に利用者より助言をいただく等「教えていただく」という機会が沢山ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来所時には、気軽に情報交換ができるよう、普段からの関係作りを大切にしている。また、個別の外出を計画し、家族にも協力して頂くことで、思い入れのある場所へ出向く等のプランを実行している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	随時面会を受け入れている。その中で本人の幼馴染みや以前の職場の同僚、他県の友人等が尋ねて来られている。	なじみの美容院やかつての地域で開催される催しを楽しみにしている入居者がおり、継続して利用できるように支援している。また、友人知人等の来訪に際しては「よかった。また来ます」の言葉が返ってくるような働きかけを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性に配慮した席順にすることや、利用者同士での声の掛け合い、助け合いの関係づくり（きっかけづくり）の為、職員が間を取り持つようにしている。また、可能な限り、毎日のアクティビティを1F・2Fの利用者全員で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族が近所の方については、通りすがりの挨拶であるとか、近況報告を受けたりといった交流あり。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを意図的に把握できる場面を作りながら、意向を確認している。意思疎通の困難な方には、ご家族の協力をいただいている。	入居者一人ひとりの「人生史」を大切に捉え、機会あるごとに昔を探りながら、その人を知ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族からの聞き取りにより、生活リズムや嗜好に関する事等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックを行うと同時に身体・心身の様子を伺い、現状の把握に努めている。必要事項は生活状況に記録を記し、情報を共有している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	原則3ヶ月ごとにモニタリングを行い、ご家族の意見も反映しつつ、職員間で見直しを検討し、現状にあったプランの作成に努めている。また、体調の急激な変化等あった場合は、3ヶ月とは言わず随時見直しを行っている。	担当職員の行ったモニタリング(3ヶ月に1回)を基に、担当者・ケアマネジャー・職員等で検討し、気づきや意見・要望が反映された計画が作成されている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	生活状況表に記録し、さらに気をつけた点等を申し送りノートに記入し、全職員で情報を共有している。また、個別記録により、個々の状況をさらに詳しく記入し情報を共有している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	医師・看護師と連携し、必要に応じて支援している。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	周辺の医療・消防・警察との連携を図り、安全で快適に暮らして行けるよう努めている。また、近隣の福祉施設と協同にて催しを実施する等の試みを行っている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	主治医はご本人・ご家族の希望を第一に治療方針等を決定し、スムーズな受診ができるようご家族と情報交換を随時行っている。	入居者は希望のかかりつけ医を受診し、その受診は家族対応を基本としているが、やむを得ない場合は職員が対応している。医師や家族との情報交換も行い、情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の訪問看護の看護師が、週1回来所し常態観察を行っている。また、治療・ケアの助言・指導を必要に応じて受けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所は医療法人グループの一員であり、退院時の医療機関との協働はしっかり行えている。加えて近隣の入院応需の病院（JR病院）とも医療連携の書面を交わしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期ケアについては「看取りに関する指針」の記載内容に基づき、体制は整っている。（実際、2013年3月に看取りを経験）	事業所には「看取りに関する指針」が整備されており、最後まで看取る方針である。家族と共に最後を見送った事例もあり、その事が職員の意識向上に繋がっている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回は消防署の方に依頼し、救急蘇生等の講習会を開催していただき、職員が参加している。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の避難訓練を実施。地域防災については、近隣の福祉施設と書面にて防災協定を結ぶ予定である。	年2回の避難訓練のうち1回は消防署立会いの下に実施している。また、災害備蓄のためのプレハブ建設予算を計上し、今後、備蓄を充実させる予定である。	運営推進会議を活用して、非常災害時における近隣住民の協力を要請したり、地域と合同で災害訓練を実施する等地域との連携を図っていただきたい。防災協定書の締結や備蓄のプレハブ建設等計画の早期実現を期待する。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者の尊厳を傷つけないよう十分に配慮している。ケースファイル等も施錠できる収納庫で管理している。	研修体制を充実させ、プライバシー配慮について周知徹底している。リビングからトイレが見えないようにカーテンを設置したり、周囲に配慮した言葉かけがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々に合った方法で説明し、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールにケアを合わせるのではなく、その日の利用者の状況や希望に合ったケアが出来る様、柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者にはなじみの美容院に出掛けていただけるよう支援している。また、家族に本人の好みの衣類を持ってきていただき、季節に合わせた洋服を着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立に出来るだけご利用者の希望を取り入れ、食事を楽しみの一つとして提供出来るよう支援している。また、盛り付け・配膳・下膳・片付け等できる範囲で一緒に行っている。	毎日の夕食メニューは、入居者と相談しながら決められ、入居者と一緒に作った食事を職員も共に楽しんでいる。庭先で栽培した野菜が食卓に上ることもある。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	水分摂取については、1日1500CCを目標 とし、場面毎での提供を心がけている。 食事についても、個別の食事形態等に配 慮し、必要に応じて栄養補助食品を使用 している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを欠かさず行っている。 訪問歯科の受診が必要な方はその都 度、受診していただき、歯科医より指導 を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	トイレで気持ち良く排泄していただく為 に、個別の排泄パターンを把握するよう 努め、個々に合った排泄介助を行ってい る。	適切な援助と道具（前傾姿勢保持テーブ ル）により、トイレで排泄できるように 支援している。介護度の高い人も、時間 排尿を行う事により、普通の下着で過 す事が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	適切な水分摂取、適度な運動、食材への 配慮を日々心がけ、自然排便できるよう 留意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	全て希望に添えているわけではないが、 可能な限りご利用者の要望を聞くよう努 めている。また、負担なく入って頂ける よう、ハード面の整備と介助者のスキル 確認を行っている。	埋め込み浴槽やつかみ易い浴槽の縁、入 浴台等設備の工夫により、一人でゆっく り肩まで浸かって、入浴を楽しむことが 出来るよう配慮されている。希望があれば、昼からは何時でも入浴に対応でき る。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に応じていつでも休息できるよう配慮し、午眠については夜間の睡眠の妨げにならないよう注意している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストは、職員がいつでも確認できる場所にファイルしている。症状の変化等が見られた場合には、速やかに医師・看護師に連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯・ゴミ捨てなどを手伝っていただいている。可能な限り戸外に出ることを日課とし気分転換をしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩をその日の体調等を考慮して行っている。また遠方へのお出かけの際には、ご家族をお誘いして協力を得ながら行っている。	日常的に、夕方4～5人でのんびりと近所を散歩している。入居者の誕生日には、希望の場所に出かけられるように、担当者が企画し、事前準備（トイレ等の下見をして対応できるか確認）を行った上で実施している。また、急な外出希望にも出来る限り対応するように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に当ホームでは個人のお金は預かっていないが、本人が望む購入物で希望に沿う物があれば、ご家族に相談した上で「個人立替」と言う形を取っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		<b>○電話や手紙の支援</b>  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取次ぎや、手紙を書いていただくことを日常的に支援している。		
52	19	<b>○居心地の良い共用空間づくり</b>  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に温度・湿度計を設置し管理を行い快適に過ごして頂ける環境を作っている。リビング、玄関等には季節の花を飾り季節感を演出している。	互いに適切な距離を保ちつつ向かい合っ て会話できる六角テーブルや座位保持が 施された椅子等、専門家の工夫が随所に 盛り込まれた家具が配置され、入居者が 居心地よく過ごしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b>  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースには食卓用の椅子に加えて、ソファを置き、過ごしやすい場所になるよう配慮している。		
54	20	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b>  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際にご本人の使い慣れた家具等をお持ち込み頂き、可能な限り自宅に近い環境づくりに努めている。	居室前には個性に応じた名札が掛けられ、なじみの家具や小物に囲まれた居室となっている。ペットと離れることができない人が犬と一緒に入居したケースもあり、犬の世話も職員で対応した。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b>  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室の位置が分かるように、大きく看板や目印をつけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に基づき、行動指針となる「生活作り10ヶ条」を毎朝の朝礼時に復唱している。そして、その言葉の意味を全職員が理解し、実践する為、管理者やリーダーが中心となり、周知徹底に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的にはホーム周辺の掃除や散歩の際、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域行事への参加や、自分達の主催する行事へ招待する等、積極的な交流を行っている。 町内会にも加入し、地域の一員として交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	専門的な認知症ケアについて常に向上心を持ち、地域の方から電話や訪問にて相談を受けたときは、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、ご利用者の生活状況報告や取り組んでいるケア実践等の報告を行い、また、参加者からも事業所に対する意見や提案を頂き、双方向のやりとりを行った結果をサービスに反映している。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への定期参加を促している。また、事故報告書を市の方へ随時報告を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b>  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内外の身体拘束に関する研修に参加することで理解を深めると共に、事業所内において委員会を設置し、広く普及に努めている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b>  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内外の虐待防止に関する研修に参加することで理解を深めると共に、事業所内において委員会を設置、広く普及に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修に参加することで知識を深め、資料の回覧及び配布により、各職員が周知できるよう努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b>  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書を提示し、具体的に説明するよう努めている。ご利用者及びご家族等からの要望や疑問などについては、可能な限り適切な対応に努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に3回家族会を開催。家族よりの意見を伺う機会を設けるとともに、普段より面会等で来られた場合に、意見等あれば都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<b>○運営に関する職員意見の反映</b>  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、全体会議及びリーダー会議といった定例会議を開催し、意見交換の機会を確保している。		
12		<b>○就業環境の整備</b>  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績考課表や職務チェックリストによる個々の職員の評価制度を設け、年に2回実施、昇給等に反映させている。		
13		<b>○職員を育てる取組み</b>  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	筆記・実技試験を実施（マイスター制度）各職員の介護知識及び技術の把握を行っている。また、定期的な内部研修及びOJTにより、介護技術の向上に努めている。外部研修については、研修補助費という制度を利用できる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b>  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に定期的に出向き、情報交換等により連携を図っている。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b>  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には、ご本人とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に対する心情や意向を的確にお聴きするよう努めている。その際、担当者を定め、可能な限り同じ者が対応するよう心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前より、ご利用者に関する要望や思いを丁寧に聞き取りすると共に、事業所のコンセプトを伝え、場合によっては、ご家族の協力を必要とすることがあることを理解して頂く。そして、密な情報提供により、ご家族に安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談や電話にての相談時には、ご本人やご家族等に今必要な支援を把握し、ご本人に合ったサービス利用の提供を支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的な介護ではなく、自立支援を念頭においた「共に行う」という意識の下、支援をしている。また、調理等の際に利用者より助言をいただく等「教えていただく」という機会が沢山ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来所時には、気軽に情報交換ができるよう、普段からの関係作りを大切にしている。また、個別の外出を計画し、家族にも協力して頂くことで、思い入れのある場所へ出向く等のプランを実行している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	随時面会を受け入れている。その中で本人の幼馴染みや以前の職場の同僚、他県の友人等が尋ねて来られている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性に配慮した席順にすることや、利用者同士での声の掛け合い、助け合いの関係づくり（きっかけづくり）の為、職員が間を取り持つようにしている。また、可能な限り、毎日のアクティビティを1F・2Fの利用者全員で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族が近所の方については、通りすがりの挨拶であるとか、近況報告を受けたりといった交流あり。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを意図的に把握できる場面を作りながら、意向を確認している。意思疎通の困難な方には、ご家族の協力をいただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族からの聞き取りにより、生活リズムや嗜好に関する事等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックを行うと同時に身体・心身の様子を伺い、現状の把握に努めている。必要事項は生活状況に記録を記し、情報を共有している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b>  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	原則3ヶ月ごとにモニタリングを行い、ご家族の意見も反映しつつ、職員間で見直しを検討し、現状にあったプランの作成に努めている。また、体調の急激な変化等あった場合は、3ヶ月とは言わず随時見直しを行っている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b>  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活状況表に記録し、さらに気をつけた点等を申し送りノートに記入し、全職員で情報を共有している。また、個別記録により、個々の状況をさらに詳しく記入し情報を共有している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b>  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医師・看護師と連携し、必要に応じて支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b>  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	周辺の医療・消防・警察との連携を図り、安全で快適に暮らして行けるよう努めている。また、近隣の福祉施設と協同にて催しを実施する等の試みを行っている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b>  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医はご本人・ご家族の希望を第一に治療方針等を決定し、スムーズな受診ができるようご家族と情報交換を随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の訪問看護の看護師が、週1回来所し常態観察を行っている。また、治療・ケアの助言・指導を必要に応じて受けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所は医療法人グループの一員であり、退院時の医療機関との協働はしっかり行えている。加えて近隣の入院応需の病院（JR病院）とも医療連携の書面を交わしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期ケアについては「看取りに関する指針」の記載内容に基づき、体制は整っている。（実際、2013年3月に看取りを経験）		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回は消防署の方に依頼し、救急蘇生等の講習会を開催していただき、職員が参加している。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の避難訓練を実施。地域防災については、近隣の福祉施設と書面にて防災協定を結んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者の尊厳を傷つけないよう十分に配慮している。ケースファイル等も施錠できる収納庫で管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々に合った方法で説明し、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールにケアを合わせるのではなく、その日の利用者の状況や希望に合ったケアが出来る様、柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者にはなじみの美容院に出掛けていただけるよう支援している。また、家族に本人の好みの衣類を持ってきていただき、季節に合わせた洋服を着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立に出来るだけご利用者の希望を取り入れ、食事を楽しみの一つとして提供出来るよう支援している。また、盛り付け・配膳・下膳・片付け等できる範囲で一緒に行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分摂取については、1日1500CCを目標とし、場面毎での提供を心がけている。食事についても、個別の食事形態等に配慮し、必要に応じて栄養補助食品を使用している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを欠かさず行っている。訪問歯科の受診が必要な方はその都度、受診していただき、歯科医より指導を受けている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレで気持ち良く排泄していただく為に、個別の排泄パターンを把握するように努め、個々に合った排泄介助を行っている。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	適切な水分摂取、適度な運動、食材への配慮を日々心がけ、自然排便できるよう留意している。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	全て希望に添えているわけではないが、可能な限りご利用者の要望を聞くよう努めている。また、負担なく入って頂けるよう、ハード面の整備と介助者のスキル確認を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	体調に応じていつでも休息でき るよう配慮し、午眠については夜 間の睡眠の妨げにならないよう 注意している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬リストは、職員がいつでも 確認できる場所にファイルして いる。症状の変化等が見られた 場合には、速やかに医師・看護 師に連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	洗濯・ゴミ捨てなどを手伝って いただいている。可能な限り戸 外に出ることを日課とし気分転 換をしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日々の散歩をその日の体調等を 考慮して行っている。また遠方 への出かける際には、ご家族 をお誘いして協力を得ながら 行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	基本的に当ホームでは個人のお 金は預かっていないが、本人が 望む購入物で希望に沿う物があ れば、ご家族に相談した上で「 個人立替」という形を取ってい る。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		<b>○電話や手紙の支援</b>  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取次ぎや、手紙を書いていただくことを日常的に支援している。		
52	19	<b>○居心地の良い共用空間づくり</b>  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に温度・湿度計を設置し管理を行い快適に過ごして頂ける環境を作っている。リビング、玄関等には季節の花を飾り季節感を演出している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b>  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースには食卓用の椅子に加えて、ソファを置き、過ごしやすい場所になるよう配慮している。		
54	20	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b>  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際にご本人の使い慣れた家具等をお持ち込み頂き、可能な限り自宅に近い環境づくりに努めている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b>  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室の位置が分かるように、大きく看板や目印をつけている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂

作成日 平成25年9月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	一人一人の役割・楽しみの支援不足	入居者一人一人の人生史を大切に考え、その人を深く知る	人生史を作り、その中から役割・楽しみを外出を取り込んだ共有目標とする	4か月
2	13	災害対策の準備不足	職員の防災意識と非常時備蓄の確保	定期的防災訓練と倉庫備蓄のリストアップ	4か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。